



平成29年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年12月9日

上場会社名 株式会社アスカネット 上場取引所 東
 コード番号 2438 URL <https://www.asukanet.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 福田 幸雄
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役CFO (氏名) 功野 顕也 (TEL) 082-850-1200
 四半期報告書提出予定日 平成28年12月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年4月期第2四半期の業績(平成28年5月1日～平成28年10月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年4月期第2四半期	2,505	4.7	312	17.5	314	17.0	212	21.2
28年4月期第2四半期	2,393	2.9	266	△5.5	268	△5.8	175	△2.7
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
29年4月期第2四半期	12.73		12.66					
28年4月期第2四半期	10.50		10.40					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年4月期第2四半期	4,864	4,240	87.0
28年4月期	4,820	4,190	86.8

(参考) 自己資本 29年4月期第2四半期 4,233百万円 28年4月期 4,183百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年4月期	—	0.00	—	10.00	10.00
29年4月期	—	0.00	—	—	—
29年4月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年4月期の業績予想(平成28年5月1日～平成29年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,461	5.6	800	3.5	805	3.7	551	0.7	32.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料4ページ「四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

29年4月期2Q	17,464,000株	28年4月期	17,464,000株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

29年4月期2Q	726,541株	28年4月期	730,141株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

29年4月期2Q	16,734,113株	28年4月期2Q	16,734,496株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の数値は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注記事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(3) 追加情報	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の景気対策や日銀の金融政策の継続により緩やかな回復傾向に推移しておりますが、英国のEU離脱の影響や新興国経済の減速など、世界経済は先行き不透明な状況でもありません。

当社は、景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し遺影写真等画像映像のデジタル加工、通信出力サービスを主に提供するメモリアルデザインサービス事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するパーソナルパブリッシングサービス事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指すエアリアルイメージング事業という、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(メモリアルデザインサービス事業)

当事業におきましては、主力である遺影写真加工収入は第1四半期は苦戦したものの、第2四半期は回復傾向にあります。動画など葬儀演出関連売上の着実な増加に加え、ハード機器や額の売上も順調に推移しました。また、新たに立ち上げた葬儀社向けECサービスの浸透にも努めてまいりました。

費用面では、展示会への出展などにより広告宣伝費は増加した一方で、旅費交通費や備品費などの経費を適切にコントロールしてまいりました。

その結果、売上高は1,127,753千円（前年同四半期比102.3%）、セグメント利益は340,540千円（前年同四半期比102.5%）となりました。

(パーソナルパブリッシングサービス事業)

当事業におきましては、プロフェッショナル写真市場向けには、全国13箇所でのセミナーの実施や新製品のリリースなどにより、新規顧客の開拓や既存顧客の売上増加に注力してまいりました。その結果プロフェッショナル写真家向け売上は順調に推移いたしました。

一般消費者向けには、イベントへの出展や各種キャンペーンの実施に加え、新製品の追加やユーザーサポートの充実などの施策を実施してまいりましたが、競争環境が厳しい中、新規顧客の獲得に苦戦し、一般消費者向け売上は想定を下回りました。一方、OEM供給に関しましては、売上は順調に増加し、稼働率も良化しております。

利益面では、売上の増加により粗利益が伸長したこと、および人件費や広告宣伝費等の経費を適切にコントロールし微増に留めたことなどにより、セグメント利益は順調に増加いたしました。

その結果、売上高は1,354,420千円（前年同四半期比106.9%）、セグメント利益は242,891千円（前年同四半期比117.8%）となりました。

(エアリアルイメージング事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指し、平成23年3月に開始した事業であります。

当事業におきましては、空中結像を可能にするAIプレートの量産を最重要課題として取り組んでおります。ガラス製プレートにつきましては、十分なコストダウンは図れておりませんが、複数ルートによる生産により品質は向上し、大型プレートも生産可能となっております。

樹脂製プレートにつきましては、新製法とガラス製の生産方式と同様の手法の双方でトライを継続しております。ガラス製の生産方式と同様の手法での試作品は、小型プレートにはなりますが、販売しております。一方、新製法につきましては、最大の課題であります鏡面加工（蒸着）の工程におきまして、未だ技術的な解決をしておらず、選択肢を広げて様々なトライを行っておりますが、想定以上の時間を要しており、遅くとも当事業年度中には、新製法か、ガラス製の生産方式と同様の手法かのどちらかに絞り込む方針であります。

マーケティング面につきましては、2016年10月に展示会東京デザインウィークに出展し、デザイナーやクリエイター向けに、1m角の大型プレートを活用したインタラクティブなサイネージや精緻な操作が可能な空中結像インターフェースなどを展示し、高い注目を集めました。また、2017年3月以降に予定しております海外展示会への出展にむけた準備をすすめております。研究面におきましては、従来より開発に取り組んでおりました再帰

反射による視野角拡大型プレートの改良試作に取り組んでおります。

依然として、価格面で十分にマッチしていないことを主要因として、限られた用途での売上や小ロットでの売上に留まりましたが、プレートだけでなく筐体やセンサーを含めたパッケージでの販売も進めてまいりました。費用面では、研究開発費や人員増強により人件費が増加しましたものの、パネル販売による粗利益が増加したため、セグメント損失は縮小いたしました。

その結果、売上高は23,279千円（前年同四半期比100.4%）、セグメント損失は48,481千円（前年同四半期は54,304千円の損失）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は、各事業において増加し2,505,452千円（前年同四半期比104.7%）となりました。利益面につきましては、パーソナルパブリッシングサービス事業におけるOEM供給が順調に伸長していることを主要因として、経常利益は314,196千円（前年同四半期比117.0%）、四半期純利益は212,991千円（前年同四半期比121.2%）となりました。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ44,485千円増加し、4,864,903千円となりました。これは主に、有形固定資産が66,715千円減少する一方で、受取手形及び売掛金が32,423千円、商品及び製品が39,853千円、無形固定資産が18,022千円増加したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ5,260千円減少し、624,784千円となりました。これは主に、未払法人税等が10,300千円減少したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ49,746千円増加し、4,240,118千円となりました。これは主に、四半期純利益を212,991千円計上した一方で、剰余金の配当による減少167,338千円によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ8,683千円増加し、1,321,826千円となりました。なお、当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において営業活動の結果獲得した資金は、249,127千円（前年同四半期は197,547千円の獲得）となりました。これは主に、税引前四半期純利益314,183千円、減価償却費148,524千円を計上した一方、法人税等の支払額112,710千円を計上したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において投資活動の結果使用した資金は、75,353千円（前年同四半期は140,130千円の使用）となりました。これは主に、製本関連の機械装置など有形固定資産の取得34,603千円、写真集関連システムの開発など無形固定資産の取得39,724千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において財務活動の結果使用した資金は、165,083千円（前年同四半期は113,801千円の使用）となりました。これは主に、配当金の支払165,839千円によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年6月10日に発表いたしました平成29年4月期業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期会計期間から適用しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年4月30日)	当第2四半期会計期間 (平成28年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,918,143	1,926,826
受取手形及び売掛金	610,639	643,063
商品及び製品	123,936	163,790
仕掛品	13,423	13,264
原材料及び貯蔵品	50,720	57,049
その他	90,046	93,967
貸倒引当金	△3,803	△4,726
流動資産合計	2,803,106	2,893,235
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	514,797	508,730
機械及び装置(純額)	552,201	489,264
土地	432,702	432,702
その他(純額)	126,957	129,246
有形固定資産合計	1,626,659	1,559,943
無形固定資産	196,351	214,373
投資その他の資産	194,300	197,350
固定資産合計	2,017,310	1,971,667
資産合計	4,820,417	4,864,903
負債の部		
流動負債		
買掛金	123,714	119,820
未払法人税等	120,200	109,900
賞与引当金	129,700	127,700
その他	249,796	260,880
流動負債合計	623,410	618,301
固定負債		
退職給付引当金	6,634	6,482
固定負債合計	6,634	6,482
負債合計	630,045	624,784
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	606,585	606,585
利益剰余金	3,400,136	3,445,205
自己株式	△315,115	△313,562
株主資本合計	4,181,905	4,228,528
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,086	5,424
評価・換算差額等合計	2,086	5,424
新株予約権	6,380	6,166
純資産合計	4,190,372	4,240,118
負債純資産合計	4,820,417	4,864,903

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年10月31日)
売上高	2,393,934	2,505,452
売上原価	1,212,538	1,255,955
売上総利益	1,181,396	1,249,496
販売費及び一般管理費	915,142	936,763
営業利益	266,253	312,733
営業外収益		
受取利息	955	540
受取配当金	545	611
受取手数料	375	279
その他	557	700
営業外収益合計	2,433	2,131
営業外費用		
為替差損	80	669
営業外費用合計	80	669
経常利益	268,607	314,196
特別損失		
固定資産除却損	1,323	12
特別損失合計	1,323	12
税引前四半期純利益	267,283	314,183
法人税等	91,605	101,192
四半期純利益	175,677	212,991

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	267,283	314,183
減価償却費	129,879	148,524
株式報酬費用	1,021	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,474	921
賞与引当金の増減額(△は減少)	6,100	△2,000
退職給付引当金の増減額(△は減少)	—	△151
受取利息及び受取配当金	△1,500	△1,151
為替差損益(△は益)	2	7
固定資産除却損	1,323	12
売上債権の増減額(△は増加)	△47,676	△32,423
たな卸資産の増減額(△は増加)	△42,344	△46,023
仕入債務の増減額(△は減少)	24,762	△3,893
未払消費税等の増減額(△は減少)	△32,665	△11,231
その他	△22,523	△5,721
小計	285,136	361,050
利息及び配当金の受取額	851	786
法人税等の支払額	△88,440	△112,710
営業活動によるキャッシュ・フロー	197,547	249,127
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△5,000	△5,000
定期預金の払戻による収入	5,000	5,000
有形固定資産の取得による支出	△96,811	△34,603
無形固定資産の取得による支出	△44,555	△39,724
貸付金の回収による収入	6,800	720
その他	△5,563	△1,745
投資活動によるキャッシュ・フロー	△140,130	△75,353
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△132,152	△165,839
自己株式の取得による支出	△48	—
自己株式の処分による収入	19,236	756
その他	△836	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△113,801	△165,083
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△7
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△56,387	8,683
現金及び現金同等物の期首残高	1,105,536	1,313,143
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,049,149	1,321,826

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成27年5月1日 至 平成27年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッ シングサー ビス事業	エアリアル イメージ ング事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,102,635	1,266,508	23,182	2,392,326	1,607	—	2,393,934
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	132	—	132	—	△132	—
計	1,102,635	1,266,641	23,182	2,392,459	1,607	△132	2,393,934
セグメント利益 又は損失 (△)	332,302	206,146	△54,304	484,144	△15,776	△202,114	266,253

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、「ギフトネットコム」サービスであります。

2 セグメント利益の調整額△202,114千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

3 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期累計期間(自 平成28年5月1日 至 平成28年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッ シングサー ビス事業	エアリアル イメージ ング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,127,753	1,354,420	23,279	2,505,452	—	2,505,452
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,127,753	1,354,420	23,279	2,505,452	—	2,505,452
セグメント利益 又は損失 (△)	340,540	242,891	△48,481	534,950	△222,216	312,733

(注) 1 セグメント利益の調整額△222,216千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。